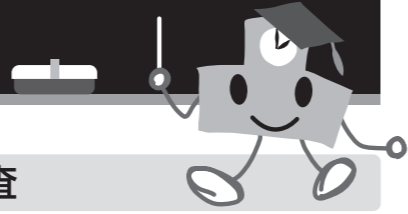


「ごみダイエット研究室」で学校のごみの実態を調べ、自分でできることを宣言。

学校のごみを減らすため、児童たちがごみを調べ、改善策を考えている。聞き取り調査をとおり、学校のごみについて問題意識をもたせ、エコ宣言をして、環境についての意識を高める。



内容 用務員インタビューで学校ごみの実態調査

本校では、4年生の総合的な学習の時間に「ごみダイエット研究室」という活動に取り組んでいる。この活動のねらいは、学校のごみを調べたり、用務員さんの話を聞いたりすることから、自分たちができる活動を見つけていくことである。自分たちの気づかないところで仕事をしている用務員さんの仕事を知り、学校のごみという、自分たちの生活の中から考えた課題を追求することをとおして、環境へ目を向けさせている。具体的な活動、学習内容は次のとおりである。

- 1** 学校のごみを調べてみよう
…全校の協力を得て、一日分のごみを集める。実際に自分でごみを分別してみる。
- 2** 学校のごみのことで困っていることはないか、用務員さんにインタビューしよう
…「どんな種類のごみが多いですか」「ごみはどこへ行くのですか」「ごみの分別で困ることは何ですか」「みんなにやってほしいことは何ですか」など。
- 3** 自分たちでできることを見つけよう
…「教室のごみを減らす方法は?」「きちんと分別する工夫は?」
- 4** ぼく、わたしのエコ宣言をしよう!
…「えんぴつや消しゴムを、最後まで使います!」「ごみは、ちらしで箱を作り、そこに入れます!」「まだ使えるのに新しいものを買わないようにします!」

2については、できるだけ児童の生活に合った話をしてもらうことがポイントとなる。そのためには、用務員さんと打ち合わせをして活動のねらいを伝え、事前に児童の質問事項を知らせておくことよ。

3では、自分たちが日常の生活の中でできる工夫を見つけ出させることが大切である。なかなか自分の活動を見つけられない児童には、調べ方のヒントを与えることも必要となる。本校では、リサイクルではなく、リユースやリデュースの考え方で活動を進めている。できれば学年のわくを超え、全校へ発信させるのが理想である。

最終段階の**4**では、環境について意識付けを図るため、これから心がけていこうとしていることを「エコ宣言」として短冊に表している。また、その「エコ宣言」を一人一人が学年内で発表したり、ホールに掲示して全校に発信したりしている。



用務員さんへインタビュー

今後 全学年に「ごみダイエット」カリキュラムを

新学習指導要領の全面实施により、平成23年度からカリキュラムが変わり、「総合的な学習の時間」の時間数は減る。しかし、この「ごみダイエット研究室」は継続していきたいと考えている。また、「環境」に関する学習を全学年で実施するように、本校の教育課程の編成を行っていく。編成に際しては、どのような活動が子どもの興味・関心につながるのかを考え、もっと工夫や話し合いを重ねていきたい。



子供たちのエコ宣言

低学年は、具体的な体験や活動が大切である。生活科の学習で、公園で遊んだときに「ごみが落ちていた」とする。そこに目を向けさせて、どう思うかを考えさせる。「あぶない、汚い」と感じることから「きれいにするにはどうしたらよいと思うか」と結びつけ、「ごみ拾いをしよう!」という考えにつなげていく。自分たちを取り巻く身近なものをきっかけにして考え、行動につなげていくことが大切である。高学年になると、チームを作って内容を練り、学校全体に呼びかけて取り組んでいくということへ発展していく。

低学年は遊びや興味から、高学年は自分で問題を見つけ解決するというように、発達段階に応じた学習内容の組み立てが必要である。また、学年で取り組んだ活動を、「学校全体の活動」に変化、拡大させていくことも、環境について意識させる望ましい形であると考えている。

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

学校では、ペットボトルキャップ回収にも取り組んでいます。手稲区では、「区政20周年記念事業」で、地域が協力し合い様々な色のペットボトルキャップを集め、「前田森林公園から見た手稲山の絵」を作成しました。この事業に参加したことがきっかけとなり、現在もペットボトルキャップ回収活動が続いています。